

令和5年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

部課室名	土木部 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 志茂 大輔 (県道班長 勝山 賢一)	内線	4362 (4376)
事業種目	道路事業	新規評価年度	平成25(2013)年度	現計画	前回評価時点
事業名	東播磨南北道路 (主要地方道 かこがわおの 加古川小野線)	事業採択年度	平成26(2014)年度	総事業費	555億円
		着工年度	平成28(2016)年度	内用地補償費	111億円
		再評価年度	平成30(2018)年度 令和3(2021)年度	完成予定年度	令和7 (2025)年度
事業区間	やはたちょう いけじりちょう 加古川市八幡町～小野市池尻町	進捗率 (用補進捗率)		約81% (100%)	約59% (100%)
		残事業費		107億円	187億円
事業の目的			事業内容		
高規格道路である東播磨南北道路(東播磨道)は、加古川市の加古川バイパスと小野市の国道175号を結ぶ自動車専用道路である。 ○地域の連携・交流の促進 本事業により、東播磨と北播磨地域との所要時間を短縮し、地域の連携・交流を促進するとともに、沿線市町の活性化を図る。 ○地域の安全・安心の向上 東播磨地域の南北交通を効率的に処理し、交差点における渋滞の緩和や交通事故の減少など安全で円滑な交通を確保する。また、北播磨総合医療センターをはじめとする北播磨地域の医療機関と県立加古川医療センター(3次救急医療機関、災害拠点病院)との連携強化を図る。 ○地域の活性化 東播磨道の整備を見据えて企業の設備投資が進められる等産業界からの期待も大きく、地域の活性化に寄与する。			【延長】6.9km 八幡稲美ランプ～八幡三木ランプ 2.5km [4車線] 八幡三木ランプ～(仮)国道175号ランプ 4.4km [2車線] 【構造規格】第1種第3級 【計画幅員】 八幡稲美ランプ～八幡三木ランプ 暫定2車線 車道7.0m [全幅12.7～13.5m] 完成4車線 車道14.0m [全幅18.7～19.0m] 八幡三木ランプ～(仮)国道175号ランプ 完成2車線 車道7.0m [全幅12.7～13.5m] 【計画交通量〔暫定2車線〕】:R22予測 八幡稲美ランプ～八幡三木ランプ 21,900台/日 八幡三木ランプ～(仮)国道175号ランプ 9,700～10,800台/日 【負担割合】国:55%、県:45%		
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	① 本事業区間終点側の小野市市場地区にて、小野市と県企業庁により整備されたひょうご小野産業団地の全区画が分譲され、一部企業は操業を開始している。 ② 平成31年度に北播磨総合医療センターで高齢者福祉施設、令和2年度に加古川医療センターで総合在宅ケアセンターが開設され、新たな医療拠点が形成されている。 【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 ① 切土区間は軟岩や中硬岩と想定し掘削を進めていたところ、硬岩が確認された。加えて、周辺に精密機械工場や関西電力株の高圧送電鉄塔が存在することから、従来の発破工法より大幅に振動を低減できる油圧割岩工法を採用する。以上により、工事費を約40億円増額する。 ② 切土箇所の交通規制協議による仮設防護柵の追加、高架橋のNEXCO協議による施工方法の変更、残土の搬出先変更等により、工事費を約31億円増額する。 ③ 建設資材単価及び労務単価が上昇したことを受け、インフレスライド条項等に基づき、工事費を約24億円増額する。 ④ 上記①に伴い、完了年度を令和7年度に変更する。				
進捗状況	① 進捗率は事業費ベースで81%、用地取得は100% ② 平成28年度に着工し、令和5年3月に八幡稲美～八幡三木ランプ間を先行部分供用した。早期の全線供用に向け、工事進捗を図っている。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び 対応方針 (R3年度再評価)	【審査会意見】継続妥当 事業費の増額事例を蓄積・内部共有するとともに、事業費算定根拠の精度向上や不確実性の考察に取り組みたい。そのうえで、東播磨道南工区との路線ネットの構築に向けて早期完成に尽力されたい。		【対応方針】 事業費増額事例をデータベース化し、内部共有することで事業費の精度向上を図る。早期完了を目指し事業進捗を図る。		
(1)必要性	・東播磨地域と北播磨地域の移動時間短縮により、連携・交流を促進するとともに、沿線市町の活性化を図る。 ・通過交通の転換により、渋滞緩和や交通事故の減少など、安全で円滑な交通を確保する。 ・災害発生時には、東播磨地域と北播磨地域を結ぶ主要な緊急輸送道路となる。				
(2)有効性 ・効率性 (執行環境状況)	① 費用便益比B/C=1.1(全体)(前回評価時点B/C=1.2)、B/C=2.3(残事業) ② 全国屈指の工業地域である播磨臨海地域と内陸部の産業拠点をつなぐことにより、移動時間を短縮でき、播磨臨海地域を全国ネットの高速道路網へ接続できることから、産業界から大きな期待の音が寄せられている。 ③ 重篤患者の死亡率の減少を目指し、県立加古川医療センターへの救急搬送時間を短縮する。小野市消防本部によると、県立加古川医療センターへの救急搬送に部分供用区間がよく利用されており、救急搬送時間の短縮に貢献している。				
(3)環境適合性	① 八幡三木ランプ以南は、県の「環境影響評価に関する条例」に基づき、環境影響評価を実施し、また、八幡三木ランプ以北は条例対象外で自主的に環境影響評価を毎年実施している。 ② 供用後に、事後監視調査(騒音・振動、生物の生態調査等)を実施する予定である。				
(4)優先性	① 安全で円滑な交通を確保するため、早期に事業を完了させる必要がある。 ② 部分供用により、全線供用まで残り4.4kmとなった。整備効果を最大限発揮させるため、早期に全線を供用する必要がある。				
再評価の結果	継続	左の理由	事業の必要性は事業採択当時と変わっておらず、用地を全て取得していることや道路改良工事等が進められていること、また、東播磨南北道路建設促進期成同盟会をはじめ早期供用を望む地域からの要望は依然として強いことから、継続して早期に事業を完了する必要がある。		

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第3回〕）



	事業進捗状況・予定	整備効果
全体 H26(2014) ~ R7(2025)	<b>【事業費＝約 555 億円】</b> 延長 6.9km 八幡稲美ランプ～八幡三木ランプ：暫定 2 車線 八幡三木ランプ～(仮)国道 175 号ランプ：完成 2 車線 橋梁 7 橋、用地：26 万㎡ 物件補償：78 件（鉄塔移設 2 基含む）	
前回再評価 まで (実績)	<b>【事業費＝約 273 億円】</b> 事業進捗率 59%、用地進捗率 100% ・用地取得面積 26 万㎡ ・全区間に渡り、橋梁工事に着手	
過去 2 年間 R4(2021) ~ R5(2023)	<b>【事業費＝約 175 億円】</b> 事業進捗率 81%、用地進捗率 100% ・令和 5 年 3 月八幡稲美～八幡三木間部分供用 ・全区間に渡り、橋梁工事、道路改良工事を推進	令和 5 年 3 月の部分供用により、周辺 3 箇所の渋滞交差点において渋滞が解消または緩和
今後 2 年間 (予定) R6(2024) ~ R7(2025)	<b>【事業費＝ 107 億円】</b> 令和 7 年度 事業完了予定	①地域の連携・交流の促進 ②地域の安全・安心の向上



# 道路事業 東播磨南北道路〔北工区〕 主要地方道 加古川小野線

## 位置図



## 目的

- ①地域の連携・交流の促進
- ②地域の安全・安心の向上
- ③地域の活性化

## 事業概要

事業区間：加古川市八幡町  
～小野市池尻町

総事業費：555億円  
内用地補償費：111億円

事業期間：H26～R7

事業概要：自動車専用道路  
延長：6.9km

費用便益比 B/C：1.1(全体)、2.3(残事業)

## 横断図

完成4車線区間  
八幡稲美ランプ～八幡三木ランプ  
＜盛土部＞



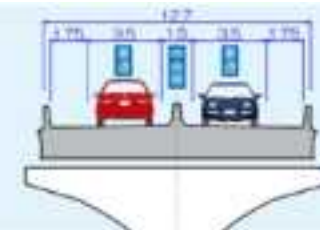
＜高架部＞



完成2車線区間  
八幡三木ランプ～(仮)国道175号ランプ  
＜盛土部＞



＜高架部＞





## 事業の必要性

- ①東播磨地域と北播磨地域の移動時間短縮により、連携・交流を促進するとともに、沿線市町の活性化を図る。
- ②通過交通の転換により、渋滞緩和や交通事故の減少など、安全で円滑な交通を確保する。
- ③災害発生時には、東播磨地域と北播磨地域を結ぶ主要な緊急輸送道路となる。

## 平面図



## 現況写真

①供用済区間(南工区)



②東播磨南北道と併走する道路の渋滞発生状況



③神戸加古川姫路線(下道)の冠水





# 事業の有効性

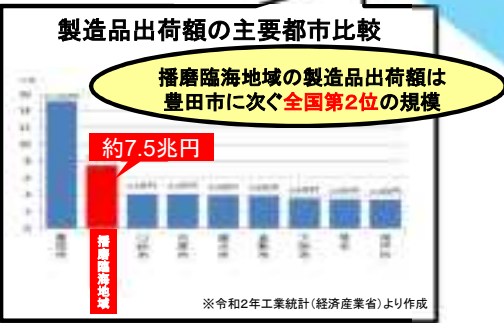
- 全国屈指の工業地域である播磨臨海地域と内陸部の産業拠点をつなぐことにより、移動時間を短縮（生産性を向上）
- 関西圏の外環状道路を補完する道路ネットワークとしても機能し、播磨臨海地域を全国ネットの高速道路網へ接続  
→産業界も、東播磨道の延伸に大きな期待



◎北工区(Ⅱ期)整備を期待した周辺整備

- ・ひょうご小野産業団地  
R3年度整備完了  
8区分譲完了、3区分操業中
- ・新都市中央線(H29.3.1開通)

完成イメージ



◎産業界からの期待の声

臨海部からの通勤が便利になるので期待しています。

日本ハムファクトリー(株)

製品の輸送に山陽道を利用しやすくなるので期待しています。

(株)神戸製鋼

小野工場にハム・ソーセージの生産拠点を集約

Nipponham

投資額 約45億円

加古川に全ての製鉄機能を集約

KOBELCO

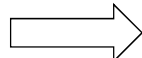
投資額 約650億円

重要港湾 東播磨線

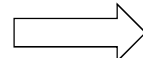
# 事業の有効性・優先性(部分供用効果)

- 部分供用により、新たに3箇所の交差点で渋滞が解消または緩和され、既に供用している南工区（加古川バイパス～八幡稻美ランプ）を含めると、延べ7箇所の渋滞交差点で交通がスムーズに
- 渋滞解消により地元から喜びの声が寄せられている
- 小野市消防本部によると、県立加古川医療センターへの救急搬送に部分供用区間をよく利用しているとのことで、救急搬送時間短縮に貢献

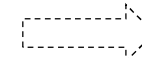
①事業着手前



②平成26年3月



③令和5年3月



④全線供用

南工区(加古川バイパス～八幡稻美ランプ)開通

八幡稻美ランプ～八幡三木ランプ開通



●: 渋滞交差点  
信号がある交差点で、交差点を通過するのに信号待ちを3回以上要する箇所など



## 【地元の喜びの声】 地元町内会長(八幡町内会連合会長兼上西条町内会長)

- ・この度の部分供用により、町内の懸案であった上西条交差点の渋滞が激減し喜んでいる
- ・一日も早く全線供用して、ほかの町内もこの喜びを味わってほしい



## 【小野市消防本部】

- ・県立加古川医療センターへの救急搬送に部分開通区間をよく利用している
- ・救急搬送時間の短縮を実感している



# 進捗状況

## 事業進捗平面図



出典: 国土地理院

工種	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
調査・設計	■	■	■	■	■	■						
用地補償			■	■	■	■	■					
埋蔵文化財調査				■	■	■						
道路改良工事			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
橋梁下部工事			■	■	■	■	■	■	■	■		
橋梁上部工事						■	■	■	■	■	■	■

# 現況写真

## ①工事進捗状況(宗佐高架橋)



## ②工事進捗状況(室山高架橋)



## ③工事進捗状況((仮)国道175号ランプ)



# 事業の有効性・効率性

## (1) 費用対効果

### ① 便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
① 走行時間短縮便益 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用－整備有りの走行時間費用 走行時間費用: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365\text{日}$
② 走行経費減少便益 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費－整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365\text{日}$
③ 交通事故減少便益 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額－整備有りの事故損失額 事故損失額: $\Sigma[\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位}]$

### ② 費用便益費(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B/C	
		便益額(百万円)			総費用(百万円)	事業費(百万円)	維持管理費(百万円)		
道路	東播磨南北道路(加古川小野線)	全体事業費	① 走行時間短縮便益	59,049	時間短縮: 41.6分 → 31.8分 計画交通量: 21,900台/日	58,588	54,752	3,836	1.1
			② 走行経費減少便益	4,463					
			③ 交通事故減少便益	847					
			計	64,359					
		残事業費	① 走行時間短縮便益	21,144	時間短縮: 41.6分 → 31.8分 計画交通量: 21,900台/日	11,071	7,235	3,836	2.3
			② 走行経費減少便益	3,455					
			③ 交通事故減少便益	816					
			計	25,415					



## (2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点	効果項目	該当する事業内容等
①安全・安心の確保 (災害時)	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)	○ 緊急輸送道路である加古川小野線のバイパス 県立加古川医療センター(災害拠点病院)への アクセス
	救助・救援活動の支援 (災害時の通行不能や孤立集落の解消)	○ H16台風23号で冠水被害を受けた加古川小野 線の代替機能の確保
	減災対策への取り組み (二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、 延焼防止機能の確保)	○ 盛土区間等浸水時の避難場所の確保
①安全・安心の確保 (平時)	救急医療体制の支援	○ 北播磨地域の医療機関と県立加古川医療セン ター(3次救急)との医療連携の強化
	交通安全対策	○ 通過交通のバイパス転換による、地域の交通 安全の確保
②地域の活性化	地域間交流の促進	○ 東播磨地域と北播磨地域の移動時間短縮による 交流の促進
	中心市街地の活性化	○ 沿岸部と内陸部の移動時間短縮によるアクセス 強化
	地域産業の活性化	○ 東播磨地域と北播磨地域の移動時間短縮による 地域産業の相互連携
	観光支援	○ 東播磨地域と北播磨地域の移動時間短縮による 観光資源の相互連携
	地域プロジェクト等支援	— —
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	○ 渋滞解消に伴う路線バスの定時性確保
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	○ 通過交通がバイパスへ転換することによる沿 道環境の改善

## (3) 地域からの要望状況等

要望状況等	<p>① 沿線の4市2町で構成された東播磨南北道路建設促進期成同盟会により、早期整備の必要性について地域住民の理解と協力を求める啓発活動等、地域の協力体制が整っている。</p> <p>② 事業説明会の開催などを通じて、地元と十分に連携を図り事業を進めている。</p>
-------	---